

伊勢志摩サミット 消防特別警戒

三重県四日市市消防本部

参事兼消防救急課長 青木 忠

警戒の目的

伊勢志摩サミット開催にあたり、サミット会議場、関係者宿泊施設、メディアセンター、空港等における火災等の未然防止と災害発生時の消防活動に万全を期することを目的とする。

警戒のあり方

① 開催前

- ・関連施設等の災害発生危険の排除
- ・災害発生時の初動体制の確立

② 開催中(平常時)

- ・警察機関等と連携し、万全の体制で有事に備える

③ 開催中(非常時)

- ・消防活動による被害の軽減
- ・警察機関等と連携し、災害発生地域の混乱を防止

警戒期間 平成28年5月24日(火)17時00分から
平成28年5月29日(日) 9時00分までの計6日間

部隊配置の考え方

○NBC災害対応として政令市の特殊災害対応車1隊と大型除染車1隊を配置する。

○他の部隊は「化学災害又は生物化学災害時における消防機関が行う活動マニュアル」に示す消防部隊を基に配置する。

○一般の火災等の対応部隊として、はしご車隊、化学車隊、水槽車隊を配置する。

※上記マニュアル中にある、相当程度の曝露者に対応するための必要となる部隊数には不足となるため、伊勢志摩及び鳥羽に設置される各警戒本部間で相互に応援することを前提とした部隊を配置とする。

消防応援体制の考え方

NBC・テロ災害部隊の強化



政令市を中心に応援部隊編成

指揮隊 特殊災害対応隊 大型除染車隊
救助隊(特別高度救助隊) 救急隊

中核市等を中心に応援部隊編成

消火隊 救助隊(高度救助隊) 救急隊
はしご車隊 化学車隊 大型水槽車隊

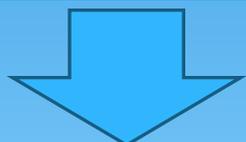
伊勢志摩サミット消防応援体制

伊勢志摩サミット開催地消防本部



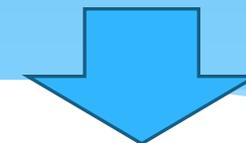
不足部隊を三重県消防長会に依頼

三重県消防長会(事務局:四日市市消防本部)
三重県内消防本部に応援依頼



不足部隊を全国消防長会東海支部に依頼

全国消防長会東海支部(事務局:名古屋市消防局)
愛知県・岐阜県消防長会に応援依頼



不足部隊を全国消防長会に依頼

全国消防長会
全国政令市消防局に応援依頼

伊勢志摩サミット消防応援体制

政令市等【1庁9消防局】

さいたま市消防局、東京消防庁、横浜市消防局、静岡市消防局、浜松市消防局
名古屋市消防局、京都市消防局、大阪市消防局、堺市消防局、神戸市消防局

愛知県【24消防本部】

豊橋市、岡崎市、一宮市、瀬戸市、春日井市、豊川市、豊田市、西尾市、犬山市、
常滑市、小牧市、稲沢市、新城市、東海市、大府市、知多市、田原市、愛西市、
長久手市、知多中部、海部東部、尾三、西春日井、衣浦東部

岐阜県【6消防本部】

岐阜市、大垣組合、可茂組合、高山市、各務原市、多治見市

三重県【15消防本部】

桑名市、四日市市、菰野町、鈴鹿市、亀山市、津市、松阪地区、伊勢市、鳥羽市
志摩広域、紀勢地区、三重紀北、熊野市、伊賀市、名張市

伊勢志摩サミット消防応援体制(総括)

○総数 1,010名

(消防職員965名、その他職員45名)

統括警戒本部 166名

現地警戒本部 742名

予防警戒員 102名

○消防車両99台、消防ヘリ4機、県防災ヘリ2機

※消防ヘリ 東京、京都は三重県防災拠点(伊勢志摩拠点) 待機

※消防ヘリ 名古屋、大阪、
防災ヘリ 三重県、埼玉県

伊勢志摩サミット消防特別警戒体制

統括警戒本部
【統括警戒本部要員】



消防特別警戒全般の統括
サミット主会場管轄消防本部

地区警戒本部
【地区警戒本部要員】



現地警戒本部・予防警戒の統括
現地警戒本部を管轄する消防本部

現地警戒本部
【消防部隊・情報員】

予防警戒
【予防警戒要員】



消防部隊配備場所(7カ所)
サミット関係会場・ホテル等



宿泊施設等の予防警戒
各ホテル等防災センター

地区警戒本部及び現地警戒本部

	地区	現地
1	志摩地区警戒本部	賢島主会場現地警戒本部 プラザ21、長沢運動公園 現地警戒本部
2	伊勢地区警戒本部	メディアセンター現地警戒本部
3	鳥羽地区警戒本部	鳥羽(船津)現地警戒本部
4	常滑地区警戒本部	中部国際空港現地警戒本部
5	高速四日市地区警戒本部	高速四日市現地警戒本部
6	高速津地区警戒本部	高速津現地警戒本部
7	高速名古屋地区警戒本部	高速名古屋現地警戒本部

※ 高速地区及び現地警戒本部は首脳が高速移動時のみ対応

伊勢志摩サミット消防応援体制(その1)

派遣場所	人員	派遣部隊・人員等
統括警戒本部 (志摩)	166名	統括官、調整官、調整官補佐、警戒本部長、警戒副本部長、警戒支援隊長、警戒支援副隊長、救急対策部、調整本部員、本部直轄部隊(指揮隊③、消防・防災ヘリ⑥、無線中継車①、資機材搬送車①、整備工作車①)
賢島主会場現地警戒本部(志摩)	17車両 130名	東京指揮隊①、ポンプ隊③、救急隊③、救助隊②、化学隊①、はしご隊①、水槽隊②、 持災隊①、除染隊① 、拠点機能形成隊①、人員輸送隊①、情報員4名
長沢運動公園現地警戒本部(志摩) ※①	13車両 102名	京都指揮隊①、ポンプ隊②、救急隊③、救助隊①、化学隊①、はしご隊①、水槽隊①、 持災隊①、除染隊① 、人員輸送隊①、情報員4名
プラザ21現地警戒本部(志摩) ※①※②	13車両 104名	大阪指揮隊①、ポンプ隊③、救急隊②、救助隊②、化学隊①、はしご隊①、ボンベ充填隊①、人員輸送隊①、情報員4名

※①長沢とプラザは、合同で対応する。※②プラザと鳥羽の一部の隊が高速の移動警戒対応

伊勢志摩サミット消防応援体制(その2)

派遣場所	人員	派遣部隊・人員等
メディアセンター 現地警戒本部(伊勢)	15車両 122名	横浜指揮隊①、ポンプ隊③、救急隊③、救助隊②、化学隊①、はしご隊①、水槽隊①、 特災隊①、除染隊① 、人員輸送隊①、情報員4名
鳥羽現地警戒本部(鳥羽)※②	16車両 120名	さいたま指揮隊①、ポンプ隊③、 救急隊②、救助隊② 、化学隊①、はしご隊①、水槽隊②、 特災隊①、除染隊① 、人員輸送隊①、資機材搬送隊①、情報員4名
中部国際空港 現地警戒本部(常滑)	14車両 118名	名古屋指揮隊①、ポンプ隊③、救急隊③、救助隊②、化学隊①、はしご隊①、水槽隊①、 特災隊①、除染隊① 、人員輸送隊①、情報員4名
高速名古屋 警戒現地本部	5車両 46名	名古屋指揮隊①、ポンプ隊①、救急隊①、救助隊①、化学隊①

※②プラザと鳥羽の一部の隊が、高速の移動警戒対応

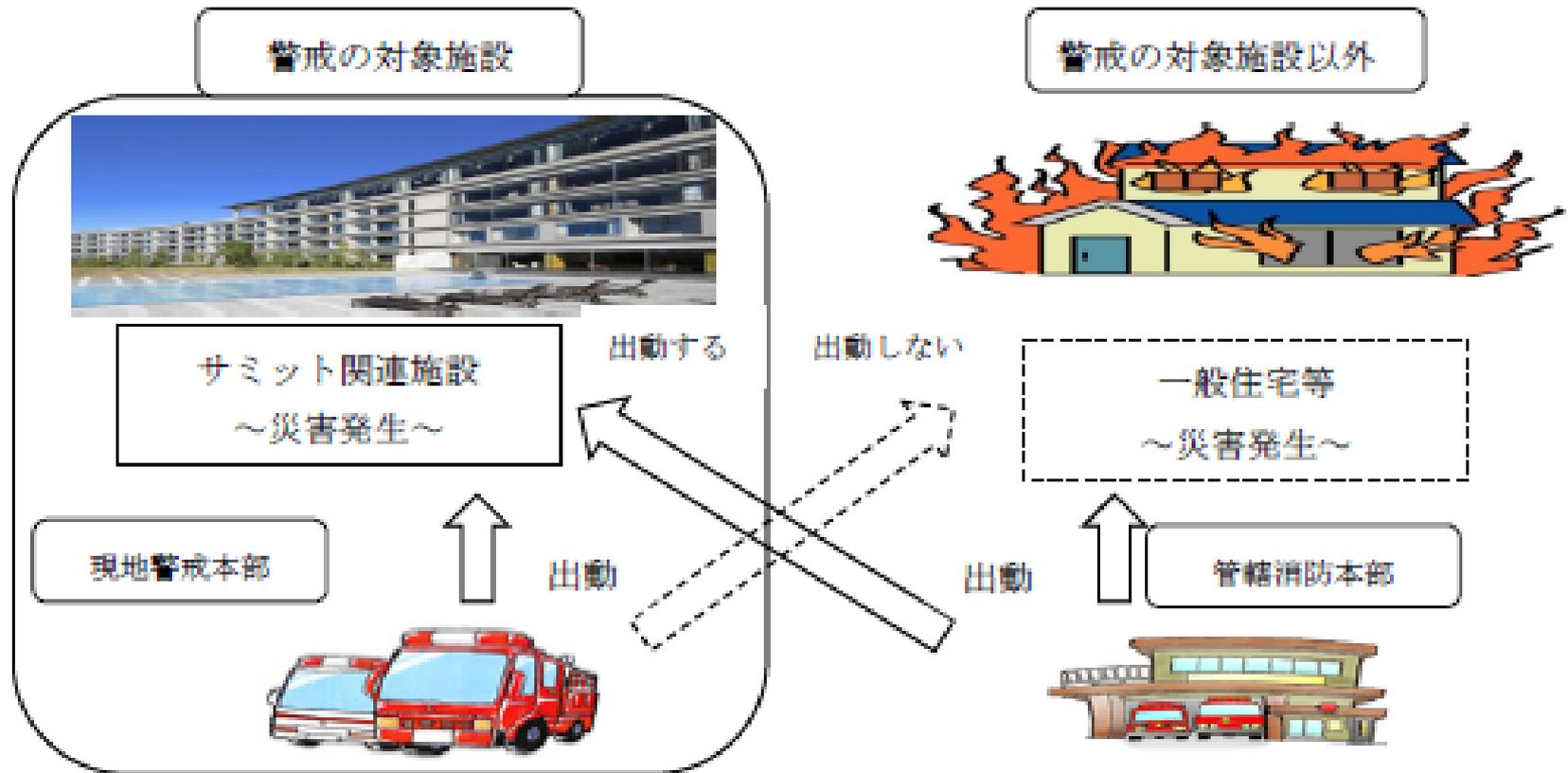
伊勢志摩サミット消防応援体制(その3)

対象施設		リーダー	サブリーダー	予防警戒員	
主会場	志摩観光ホテルクラシック	志摩	★東京	東京2(2)、桑名2、鈴鹿2、高山2	
	志摩観光ホテルベイスイート		東京	東京2(2)、四日市2、松阪2、豊田2	
首脳等宿泊施設	賢島宝生苑	志摩	★名古屋	名古屋4(2)、松阪2、豊橋2	
	ホテル近鉄アクアヴィラ伊勢志摩		大阪	大阪4(2)、熊野2、岡崎2	
	ホテル志摩スペイン村		四日市	四日市2(2)、伊賀2、春日井2	
	伊勢志摩ロイヤルホテル		津	津2(2)、名張2、名古屋2、一宮2	
	プライムリゾート賢島		京都	京都2(2)、三重紀北2、衣浦東部2	
	合歓の郷		HOTEL NEMU	大阪	大阪2(2)、津2、各務原2
			HOTEL EXCEED	京都	京都2(2)、伊賀2、多治見2
			AMANEMU	東京	東京2(2)、鈴鹿2、尾三2
	ホテルプロヴァンス		東京	東京2(2)、亀山2、小牧2	
メディアセンター	三重県営サンアリーナ	伊勢	名古屋	名古屋3(2)、名張1、伊勢1、豊川1	
	国際メディアセンター		名古屋	名古屋4(2)、伊勢1、豊川1	
空港	中部国際空港旅客ターミナルビル	常滑	名古屋	名古屋4(2)、知多中部2	

ホテル等への予防警戒員102名

伊勢志摩サミット 警戒組織・指揮体制

警戒隊の活動



基準出動計画

出動種別	出動隊	内容
火災出動 テロ災害出動	該当現地警戒本部 警戒隊全隊	
救助出動	指揮隊×1 救助隊×1 消火隊×1~2 救急隊×1	
救急出動	指揮隊×1 救急隊×1	
危険排除活動 (軽微な災害)	指揮隊×1 消火隊×1~2	自動火災報知設備の発報 火災とまぎらわしい事象 危険物の漏えい等

伊勢志摩サミット

現地警戒本部

賢島主会場現地警戒本部

隊・車両名等	構成消防本部	車両台数	人員
指揮隊	東京	1	5
ポンプ隊	東京、志摩、津	3	15
救急隊	松阪	1	3
救助隊	東京、四日市	2	10
化学隊	四日市	1	5
はしご隊	名古屋	1	5
水槽隊	東京、春日井	2	4
特災隊	東京	1	5
除染隊	東京	1	3
拠点機能形成隊	大阪	1	2
人員輸送隊	東京	1	—
情報員	(甲) 志摩1、一宮1 (乙) 犬山1、一宮1	—	2
救急隊(志摩観光ホテル待機)	堺、津	2	6
計		17	65

待機場所は宝生苑雅棟

長沢運動公園現地警戒本部

隊・車両名等	構成消防本部	車両台数	人員
指揮隊	京都	1	5
ポンプ隊	伊賀、名張	2	10
救急隊	神戸、志摩、菰野	3	9
救助隊	堺	1	5
化学隊	大垣	1	5
はしご隊	桑名	1	5
水槽隊	京都	1	2
特災隊	京都	1	5
除染隊	大阪	1	3
人員輸送隊	京都	1	—
情報員	(甲) 志摩1、海部東部1 (乙) 岐阜1、大垣1	—	2
計		13	51

プラザ21現地警戒本部

隊・車両名等	構成消防本部	車両台数	人員
指揮隊	大阪	1	5
ポンプ隊	大阪、紀勢、鈴鹿	3	15
救急隊	亀山、熊野	2	6
救助隊	大阪、豊橋	2	10
化学隊	海部東部	1	5
はしご隊	岐阜	1	5
水槽隊	岡崎	1	2
ボンベ充填隊	大阪	1	2
人員輸送隊	大阪	1	—
情報員	(甲)稲沢1、愛西1 (乙)新城1、西尾1	—	2
	計	13	52

メディアセンター現地警戒本部

隊・車両名等	構成消防本部	車両台数	人員
指揮隊	横浜	1	5
ポンプ隊	横浜、伊勢、松阪	3	15
救急隊	桑名	1	3
救助隊	浜松、神戸	2	10
化学隊	神戸	1	5
はしご隊	津	1	5
水槽隊	衣浦東部	1	2
特災隊	横浜	1	5
除染隊	横浜	1	3
人員輸送隊	神戸	1	—
情報員	(甲)伊勢1、津1 (乙)伊勢1、津1	—	2
救急隊(アリーナ待機)	浜松、伊勢	2	6
計		15	61

待機場所は三重県広域防災拠点(伊勢志摩拠点)

鳥羽(船津)現地警戒本部

隊・車両名等	構成消防本部	車両台数	人員
指揮隊	さいたま	1	5
ポンプ隊	静岡、桑名、三重紀北	3	15
救急隊	伊賀、鈴鹿	2	6
救助隊	松阪、岐阜	2	10
化学隊	大阪	1	5
はしご隊	四日市	1	5
水槽隊	尾三、可茂	2	4
特災隊	さいたま	1	5
除染隊	静岡	1	3
人員輸送隊	さいたま	1	—
資機材搬送隊	さいたま	1	—
情報員	(甲)四日市1、鈴鹿1 (乙)可茂1、鈴鹿1	—	2
計		16	60

待機場所は旧鳥羽警察署

中部国際空港現地警戒本部

隊・車両名等	構成消防本部	車両台数	人員
指揮隊	名古屋	1	5
ポンプ隊	名古屋、知多中部、東海	3	15
救急隊	名古屋、大府、知多	3	9
救助隊	名古屋、豊田	2	10
化学隊	常滑	1	5
はしご隊	名古屋	1	5
特災隊	名古屋	1	5
除染隊	名古屋	1	3
人員輸送隊	常滑	1	—
情報員	(甲)田原1、瀬戸1 (乙)西春1、長久手1	—	2
計		14	59

待機場所は中部国際空港貨物棟

各現地警戒本部指揮隊による NBC等対応訓練実施状況

- 1 賢島現地警戒本部(東京指揮隊)
3月8日及び5月11日(計2回)
事前検討会、現地踏査及び災害対応訓練
- 2 長沢・プラザ現地警戒本部(大阪・京都指揮隊)
3月9日、4月13日、4月14日、4月28日及び5月17日(計5回)
事前検討会、現地踏査、資機材取扱い訓練及び災害対応訓練
- 3 鳥羽船津現地警戒本部(さいたま指揮隊)
3月4日及び4月27日(計2回) 事前検討会及び現地踏査
- 4 メディアセンター現地警戒本部(横浜指揮隊)
3月17日及び4月22日(計2回) 事前検討会及び現地踏査
- 5 空港現地警戒本部(名古屋指揮隊)
3月9日 事前検討会及び現地踏査

消防特別警戒中における活動概要

1 出動状況等

(1) 災害出動 10件

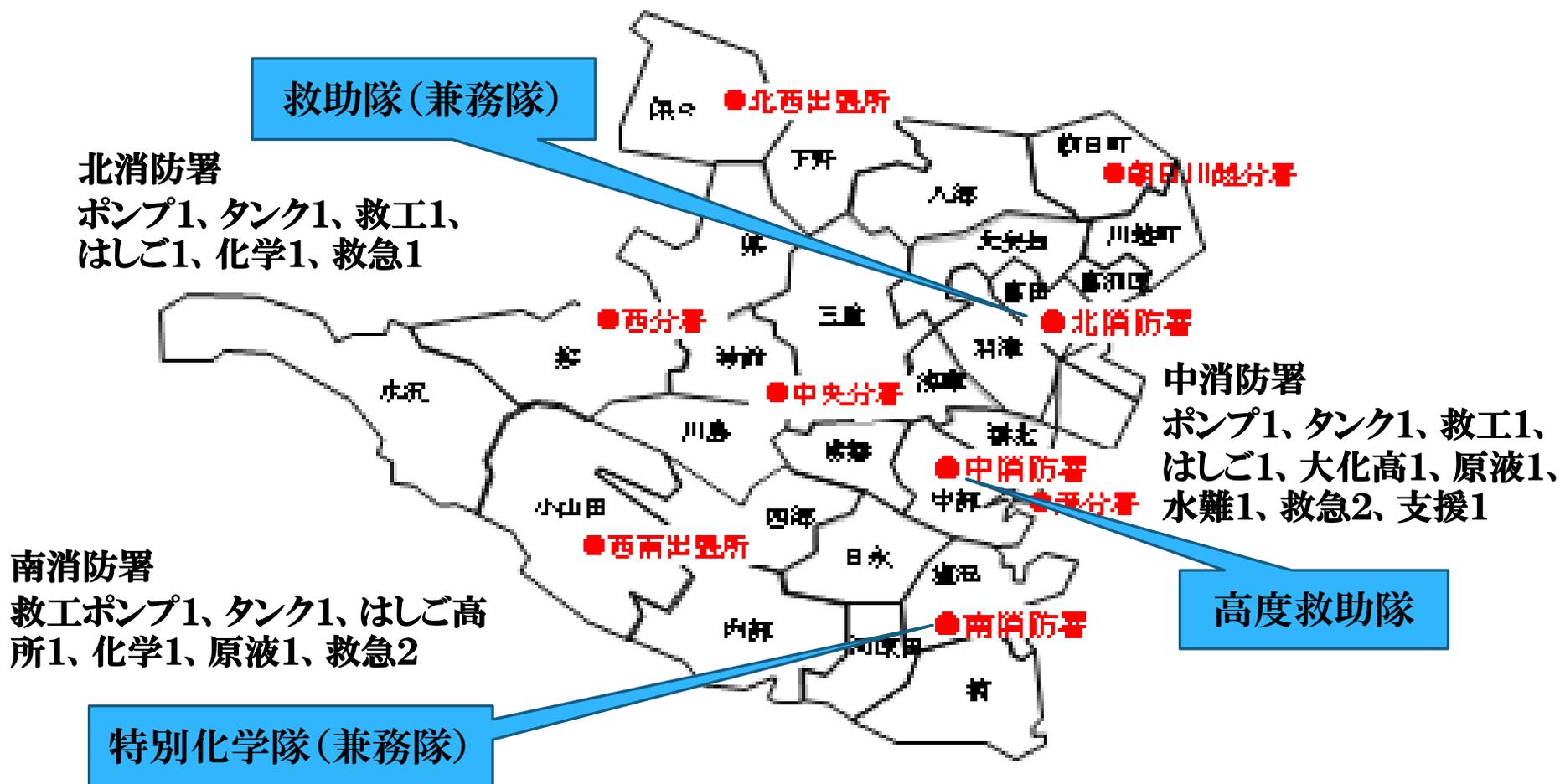
- 火災1件＝賢島最終チェックポイントの保安検査場にある荷物検査機から出火
 - 救急8件＝要人の救急事案はなく、中等症3件、軽傷5件
 - 救助0件
 - 危険排除1件＝ホテルの浴室からの蒸気により自火報のベルが鳴動
- そのほか、ホテル内で感知器取り外しによる警報や防火戸閉鎖による警報について予防警戒員が対応した事案があった。

大規模テロ発生時における

四日市市消防本部としての課題

○四日市市消防本部は管轄人口約33万人、面積221.16Km²、職員定数361人、公設消防車両77台の中小規模の消防本部であります。

四日市市消防本部管内の消防署・分署、出張所の配置状況 (1本部、3消防署、4分署、2出張所)



出動体制

○通常建物火災は、第1次出動で8台出動(最大消防車10台、救急車5台(専従3隊))。

※種別により、はしご車や化学車の特殊車両や複数救急発生による救急車等は乗り換え出動にて運用。

○署からの出動車両数は基本的に消防隊2隊、救急隊1隊であり、中心部の1署のみ高度救助隊を全市カバーとして出動。

課題

○このような規模において、BC隊として位置付けている隊は、高度救助隊1隊と特別化学隊1隊(兼務隊)の2隊であること。

○先着となる所轄署の消防隊は2隊、救急隊1隊となることから、ソフトターゲットによる大規模テロ災害等発生時において、少数隊による初動対応となること。

○BC資機材を平常時から積載しておく車両が確保できないことから、載せ替えし出動しなければならないこと。 以上